

ゲームパフォーマンス分析から見る、早稲田大学ラクロス部男子の指導
Waseda university men's lacrosse team's coaching examined from game performance analysis
1K07B051-1 勝又 裕介
指導教員 主査 堀野 博幸先生 副査 倉石 平先生

I. 序論

現代ラクロスにおいて、グランドボール獲得とクリア成功は、勝利に直結するものと指導され、早稲田大学ラクロス部男子（以下「早大ラクロス部」と略す）でも同様に指導される。しかし、未だ日本では、それが先行研究として、十分に検証されていない。そこで、本研究では、早大ラクロス部の公式戦データを対象に、まず、グランドボール獲得とクリア成功が、得点、勝敗に関わるのか否かということを検証し、それを基に、早大ラクロス部の指導の信憑性を検証することが目的である。

II. 方法

研究対象は、2008年から2010年に行われた関東学生ラクロスリーグ1部リーグの早稲田大学の試合で、スコアデータのある15試合を対象に検証を行った。分析方法は、全てのt検定の有意水準は、5%以下の場合には有意差がある、1%以下の場合には高度に有意差があるとした。また、勝敗をデータに表す際は、勝ちを1、負けを2として統一した。スコアデータは、早稲田大学ラクロス部員が会場に足を運び撮影した映像から、勝ったチーム、負けたチームの両チームの、グランドボール、クリア、勝敗、得点のデータを2人で確認しながら記録したものをを用いた。その後、それらのデータを、Microsoft Office Excel 2007（以下「Excel」と略す）によって集計をした。

グランドボールのデータについて、獲得回数と勝敗の関係について、クォーターごとに獲得回数を集計した。次に、獲得数をX軸、勝敗をY軸に表した散布図のグラフを、Excelを用いて作り、相関関係を検証した。最後に、SPSS 12.0J for Windows（以下「SPSS」と略す）のt検定を用いて有意差を検証した。獲得率と得点の関係について、1試合を通しての獲得率を、1試合合計発生回数から1試合合計獲得回数を割って求めた。その後、同様に、散布図のグラフを、Excelを用いて作り、相関関係を検証し、SPSSで相関係数を求めた。

クリアのデータについて、成功、失敗、合計のそれぞれ回数を集計し、成功率を割り出した。次に、クリア成功数をX軸、勝敗をY軸、さらに、クリア成功率をX

軸、勝敗をY軸の散布図のグラフを、Excelを用いて作り、相関関係を検証した。そして、SPSSのt検定を用いて、それぞれ有意差を検証した。さらに、成功率、成功数のそれぞれと得点の相関係数を、クォーターごとと1試合合計において検証した。

III. 結果

グランドボールに関して、グランドボール獲得数と勝敗の関係について、散布図を作成したところ、全てのクォーターで、獲得数が多ければ試合に勝つ比例関係が認められた。このデータをもとに、SPSSのt検定を用いて有意差を検証したところ、第2クォーター以外には有意差が認められた。獲得率と得点の関係も散布図に比例関係が認められ、t検定で相関係数を検証したところ、高度に有意差が認められた。クリアに関して、クリア成功数と勝敗の関係について、同様にt検定で検証したところ、有意差を認めることができなかった。クォーターごとに、相関係数を検証したところ、第2クォーターだけ有意差が認められた。クリア成功率と勝敗の関係についても、同様にt検定で検証したところ、第2クォーターと、1試合合計の成功率に有意差が認められた。さらに、クォーターごとに、相関係数を検証したところ、1試合合計の成功率と得点の関係について有意性が認められた。

IV. 考察

グランドボール獲得数と勝敗の関係から、有意差が認められ、グランドボール獲得数は、勝敗と大いに関係があることが認められた。グランドボール獲得率と得点の関係から、相関係数に高度に有意差が認められ、グランドボール獲得率を、相手より上回る必要があるということが認められた。グランドボールの重要性についての早大ラクロス部の指導は、信憑性があることが認められた。

クリア成功数と勝敗の関係から、クリアの数のデータは、重要ではないと認められた。クリア成功率と勝敗の関係から、クリア成功率の重要性が認められた。クリアの重要性についての、早大ラクロス部の指導に信憑性が認められた。